

八朔祭りの大造り物製作

林業科学科1年 櫻井 樹

緑科学科2年 西田拓光・草野光太

～林業の学びを生かした地域貢献の取り組み～



1 はじめに

本校が所在する山都町は、阿蘇南外輪山と九州脊梁山地に接する熊本県東部の中山間地である。過疎・高齢化が進むこの町の矢部地区にある浜町には、スギや竹、ススキやシュロの皮などの自然物のみを使用して作る巨大な造形物「大造り物」が特徴的な八朔祭がある。この大造り物は大きなもので高さ4mもあり山車に乗せて町を引き廻す。そのリアルな造形は野山に自生するものだけで作られているとは思えないほどの出来栄である。



「大造り物」自然物のみを使用



2 研究経過

250年以上続く「八朔祭り」では、呼び物の大造り物を町の中心部「浜町」の7つの町内連合組と小学校、役場、本校合わせて11団体が製作している。本校は、平成16年から「大造り物」を製作し、祭りに参加しておりこれまで16基を制作してきた。



3 研究内容

大造り物の製作には2カ月以上かかり、町内の山野からススキやハギ、タケ、スギ・ヒノキの樹皮や葉、コケなどを採取する材料集めには、多くの時間と労力を費やす。

近年は、燃料や食糧を採取するなどといった里山林の活用から遠ざかった生活をしているため、その材料の採取が困難な状況にある。また、温暖化の影響からススキの出穂時期が遅くなり、近隣での採取が難しくなっている。

40年以上大造り物に携わってきた年配の方に聞くと、昔はお盆を過ぎると涼しくなっていたが、最近はいつまでも暑いと気候の変化を口にされ、材料が取れなくなったことを嘆かれていた。

本校でも、片道2時間以上かけて材料の採取に出かけることもある。各団体で材

料の確保には同じように毎年苦労している状況である。

八朔祭りの大造り物を制作するまでは、山野に自生する植物は、普段は名もない雑草・雑木としか見る事ができない。しかし、材料として認識すると自然の中で育つ山野草を見る目が変化していることに気付く。

自然物を利用して八朔祭りの造り物に携わることが、林業の学習とつながっていると感じる瞬間である。

元来、材料の採取場所は各団体で独自の場所があり、どこで採取したかは明かしていない。しかし、今後の祭りの継続のために採取場所をまとめる作業を私たち高校生で行うことで、伝統的な地域の祭りを継続させる力にすることができればと考え、今年度作成した大造り物に使用した材料の採取場所について調べた。

(1)ハギ

- ・用途 全体の毛並みを表現するために活用
- ・特徴 背の低い落葉低木、木本類ではあるが、多年草のように毎年根元から新しい芽が出る。直立はせず先端はややしだれる。温帯・亜熱帯に生育し、法面のメドハギは緑化材料として活用する。
- ・採取場所 学校近くの県道沿いの法面

(2)イグサ

- ・用途 ハギと混ぜて毛並みを表現短くして腹部の毛並みを表現
- ・特徴 湿地や水中に生育し、泥に根を下ろす。熊本県八代市の特産で畳表の原料として使用される。
- ・採取場所 八代の農家さんからB級品を分けていただいた。

(3)ススキ

- ・用途 パンパグラスと混ぜてタテガミを表現
- ・特徴 イネ科ススキ属、茅と野原に生息する多年生草本で日当たりの良い山野に生育。
- ・採取場所 標高1000mを超える阿蘇北外輪山の原野で採取。学校から2時間の距離。

(4)スギ

- ・用途 顔の皮膚を表現材は骨組みに活用
- ・特徴 ヒノキ科スギ属で日本産の常緑針葉樹である。日本各地に生育し木材や防風林などに利用される。
- ・採取場所 本校演習林における間伐実習で伐倒したスギから採取。



イグサは丁寧に束ねて一つ一つを針金で骨組みに結びつける。



ハギ



(5)パンパグラス

- ・用途 ススキやハギと混ぜてタテガミを表現
- ・特徴 イネ科ススキ属、茅と呼ばれる有用植物の主要な一種、原野に生息しごく普通に見られる多年生草本で日当たりの良い山野に生育。
- ・採取場所 近隣では手に入らなかったため、今回は花市場で取扱のある生け花用を購入

(6)流木

- ・用途 キバやツメ
- ・特徴 倒木や山崩れ、水害などが原因で川に流れ、岩などに削られた木材。流線型に曲がった木の根など、美術表現に適した材料がある。
- ・採取場所 近隣の河川やダム湖で採取するが、河口付近まで川沿いを歩いて探すこともある。

(7)シュロ(樹皮、葉)

- ・用途 皮膚やツメ
- ・特徴 ヤシ科シュロ属の総称、通常シュロは寒さに弱く暖かいところに生育する。皮の繊維は縄・たわし・ほうき等に用いられる。
- ・採取場所 近隣の民家からいただいたり、熊本市近隣の高校に分けていただいたりする。

(8)タケ

- ・用途 皮は鼻、耳の表現に活用程はヒゴにして骨組みに活用
- ・特徴 草本の茎に当たる程には年輪が無く、木本のように堅くなる性質がある。わずか数ヶ月で成長し二次肥大はしない。
- ・採取場所 近隣の里山整備で切り出した竹材を活用。春先に演習林の竹山から皮を採取する。

他にカズラやシバを使用した。なお、眼球のみ電球の使用が認められている。

参考文献:永岡書店よくわかる大図鑑シリーズ、広辞苑、ウィキペディア他

4 まとめ

今年度の作品は、1年生のアイデアで亥年にちなんでゲーム「モンスターハンター」のキャラクター「ドズファンゴ」を製作した。

5月末にアイデアを募集し、決定した物のイラストから紙粘土で立体模型を製作し、実際の大きさに拡大しながら製作した。



できあがった作品は、祭り当日に山車に乗せて各団体とともに町内を引き回して披露した。年々出来映えが良くなっていると町の方々からも好評だった。

大造り物の材料を集めるために町内外を植物を見て回っていると、祭りが終わった後でも自然の変化に目が向くようになっていくことに気が付く。自然豊かな山都町の活性化と地域の伝統行事の継続のために、地域の担い手として今後は、各団体の材料の使い方の研究や材料の最終場所や時期などを囲を広げて調査を継続していきたい。